



## 子どもの経験をより豊かに 2.0

屋外環境および3歳未満児に関する調査の結果から考えるこれからの保育



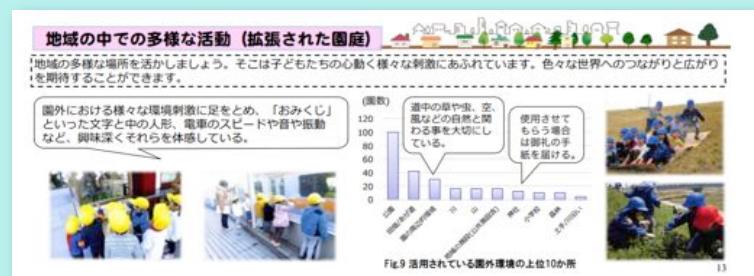
東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 園庭調査研究グループ

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)では、2016年度に全国の保育・幼稚教育施設を対象として行なった大規模調査や、実践者の方々へのインタビュー調査や全国各地の園への見学などを通して園庭や園庭での活動の実態を明らかにしました。その第2弾となる今回は、それらの調査等を通して見えてきた課題から、主に次の二点に着目しています。

第一に、「拡張された園庭」としての「地域」での取り組みについてです。園庭がない、あるいは広さや環境が十分ではないと感じている園では、園の屋内外をつなぐ戸外環境(テラス、ベランダ、屋上など)の利用や、園外の地域(公園、田畠など)を活用する例が多く見られます。また、園庭を有する園においても、園庭とは異なる活動と経験を地域から得ており、そこでの取り組みと関係性は園の保育を支える重要な資源になっていることが想定されます。

第二に、3歳未満児(以下、未満児。なお、3歳以上児は以下、以上児。)保育における戸外環境の実態についてです。保育所における未満児保育実施への期待は年々高まっています。平成20年の保育所利用者数は0歳児=4.4%、1、2歳児=29.1%であったのに対し、10年後の平成30年では0歳児=15.6%、1、2歳児=47.0%となっています<sup>1)</sup>。国際的にも3歳未満の教育とその質の重要性、保育を受ける権利を保障する動きへの関心は高く、日本でも2040年に向けた試算から、小規模・家庭的保育等を含め、質の高い未満児保育実践を検討していくことの必要性が指摘されています<sup>2)</sup>。

これらの課題を受け、本リーフレットでは、戸外環境と未満児保育に関する実態について、調査結果の一部をご紹介させていただきます。各園が書かれた日々の工夫、取組みと課題をもとに、地域を含めた様々な戸外環境が乳幼児にもたらす可能性について、考えを深めるきっかけになれば幸いです。



子どもの経験をより豊かに:園庭の質向上のためのひと工夫へのいざない(2018)p.13より

1)数値は内閣府『少子化社会対策白書』平成21年版及び令和元年版に基づいています。

2)池本美香(2017)「2040年までの保育ニーズの将来展望と対応の在り方」自治体戦略2040構想研究会資料

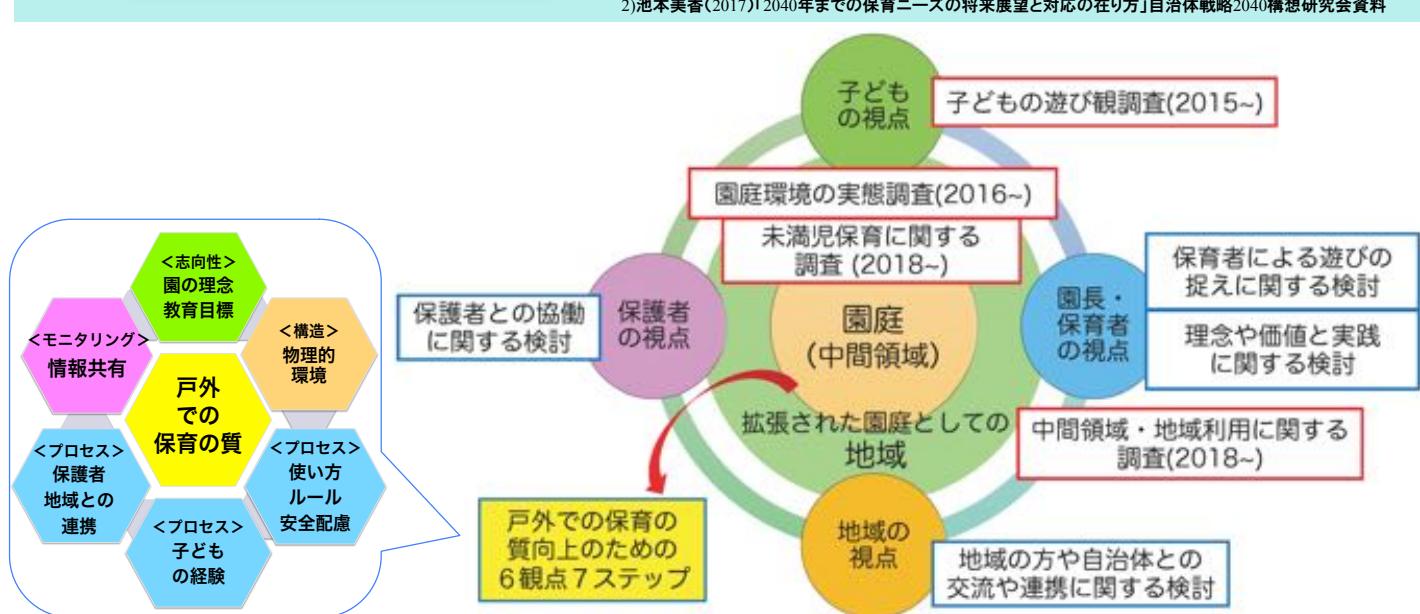


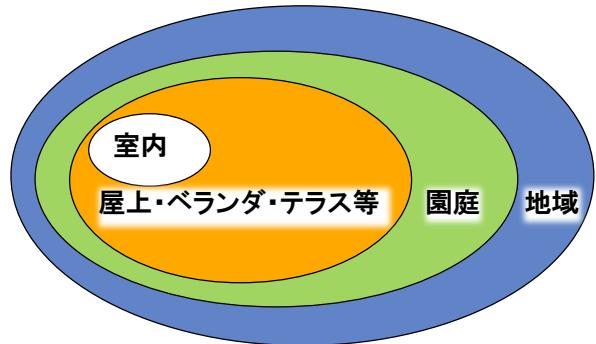
図1. 園庭・地域環境での保育 調査全体像

今回の二つの調査の概要	
<b>幼稚園・保育所等における園庭および屋上やベランダ、地域などの屋外環境の状況や活用の実態調査</b>	<b>3歳未満児の戸外環境に関する調査</b>
調査時期: 2018年3月	調査時期: 2018年11~12月
調査方法: 郵送法(自記式アンケートを郵送により配布・回収)	調査方法: 郵送法(自記式アンケートを郵送により配布・回収)
調査対象: 国公私立幼稚園および認可保育所(調査時認定こども園への移行があった園を含む)の理事長・園長・保育者・事務長など園関係者	調査対象: 公私立認可保育所および保育所型認定こども園の理事長・園長・保育者・事務長など、園関係者
調査項目: ・園内外の屋外環境の利用状況 ・園内外の場所を利用するねらいや目標 ・園敷地外への移動手段・時間・頻度 ・園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有など	調査項目: ・園の未満児に関する戸外環境 ・園の戸外環境における未満児の活用の仕方 ・園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有/地域活用について
発送数: 総数3,005園	発送数: 総数3,500園
回収数(回収率): 総数1,070園(35.6%) (内訳: 幼稚園526園、保育所458園、認定こども園83園)	回収数(回収率): 総数1,234園(35.3%)

## 「戸外環境」について

Q. 子どもたちは園においてどれくらいの時間を戸外で過ごしているのでしょうか。

A. 調査結果から、一日あたり、園庭での活動時間は幼稚園では2~2.8時間、保育所では1~1.8時間、また地域では幼稚園、保育所・認定こども園共に1~1.8時間活動すると回答した園が最も多いうことがわかりました。戸外での活動は、多くの園で行なわれています。



### 園庭



図2:以上児の平均的な園庭利用時間数／日(n=1002)

### 地域

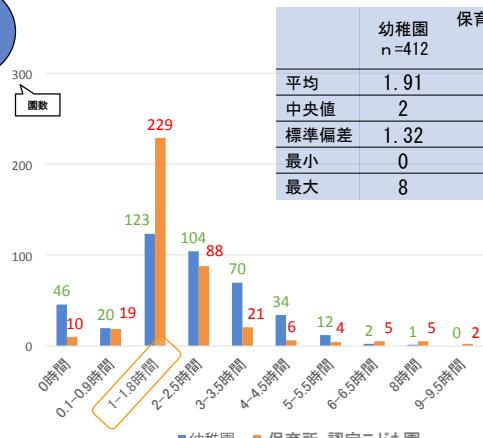


図3:以上児の平均的な園敷地外活動時間数／日(n=801)

## 「未満児保育」様々な工夫・取り組み

←質問紙調査自由記述より

Q. 未満児保育において、戸外での取組みや工夫は、どのようなものがあるでしょうか。

A. 自由記述法による回答から、未満児の保育に関する「環境の構成」「状況等設定」「声掛けなどの直接的な支援」、そして「体験を保障する」中で、多少の不安定要素に出会い、挑んだり克服したりする経験を重視している様子がみえてきました。

### 構成で

一人一人が自分の思いで動けるように保育者がなるべく個々に付くようにしている。少しの段差でも躊躇などの様子が見られるが子どもの動きなどに応じて段差をなくしたり、少しづつ経験できるようにしている。(中略) 安全面には十分に配慮して全職員で関わっている。危険なものなど排除するだけでなく、栽培物や自然物などにも触れられるようになしながら、子どもにも危険なものや扱い方なども知らせている。

あえて整地したりせず、でこぼこで転んだりすることも経験させる。転ぶときに手をつく、バランスを取る、などの体験により身につく力をつけさせたいと考える。

### 状況で

少人数で園庭に慣れる(1対1、1対3等年齢や時期により変える)ことで園庭の構造を知る。少しづつ行動範囲を広げる。遊具の使い方を伝える(一緒に丁寧に伝える)。

### 伝えて

散歩中のリスクをことばや状況で教え、安全のためのルールを覚えるようにしている。(道路を渡る際の左右確認と一緒に水路の近くは歩かない。水路の中をのぞく際は必ず腹這いになる。畔のバランス歩きでは前の人の押さない。など)…

### 体験を保障して

子ども自身の力で登れない場所に大人が手伝って登らせたりすることはない(子どもから手伝ってと言わされたとしても)。同様に降りる時等も必要以上に手をかさない。小さくても簡単に登ってしまうような場所子も簡単に登ってしまうもしない子どもは作らない。挑戦するもしないも子ども自身が決められるように見守る。

制止すべきでない場面を大人が見分けることができるよう、まず、大人の目を養う。

### 幼稚園・保育所等では…

■ どこで…どこを利用しているのでしょうか

■ 何を…子どもや保育者はそこで何を経験しているのでしょうか

■ どうやって…その取組みとは

■ なぜ…どのような思いや願いからの取り組みなのでしょうか

「屋外環境に関する調査」調査結果へ

4-5ページへ

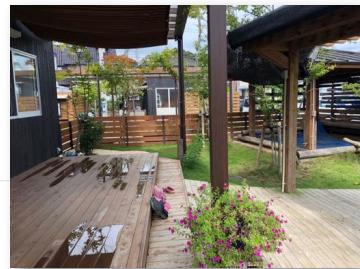
「3歳未満児の戸外環境に関する調査」調査結果へ

6-7ページへ



## 「屋外環境に関する調査」より

どこで...保育所・認定こども園や幼稚園では、戸外環境のどこで過ごしていることが多いのでしょうか



屋上・ベランダ・テラス等園舎と園庭の境界ではどこを利用...?

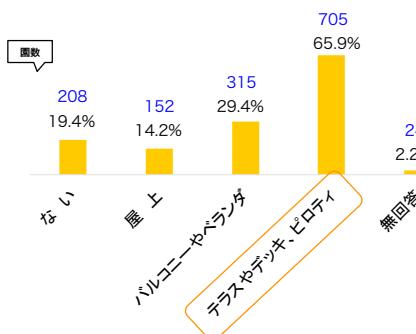


図4:屋外施設の有無(複数回答項目)

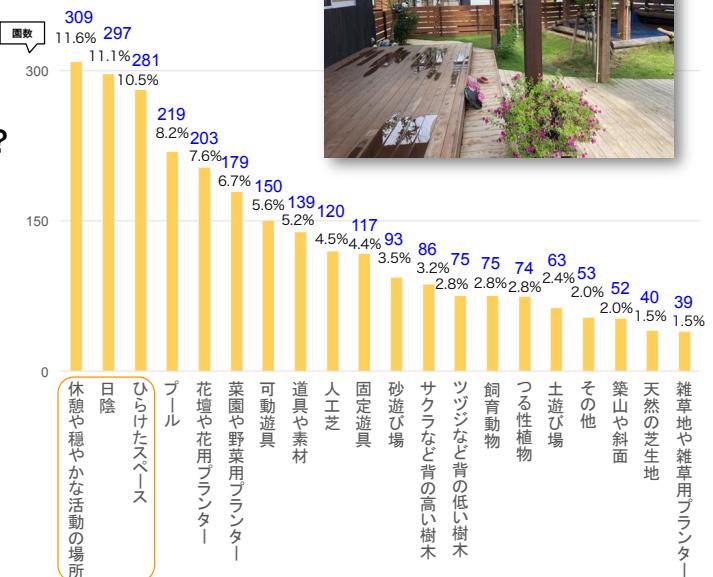


図5:活動場所(屋上、バルコニーやベランダ、テラスやデッキ、ピロティ等)の物理的環境数(比率)(複数回答項目)

Q. 園が有する戸外環境は様々です。調査では、園庭以外の戸外環境について、有無と種類を尋ねました。

- A. 園庭以外に園が所有する戸外環境としては「テラスやデッキ、ピロティ」が最も多いことがわかりました。また、屋上やベランダ、テラスなどの戸外環境は、「休憩や穏やかな活動の場所」「日陰」「ひらけたスペース」として利用されていることがわかりました。

地域はどこを利用...?



Q. 園外では子どもたちはどこで過ごしていることが多いのでしょうか。

- A. 調査では、最もよく利用している地域の場所を尋ねました。園が積極的に選択しているかどうかはわかりませんが、この回答から、全国各地において園の周囲に多くあり、また園が利用しやすい場所がわかります。結果、最もよく利用している地域の場所を尋ねた質問では、幼稚園・保育所等を問わず、「公園」が最も利用されており、次いで「小学校」「田畠やあぜ道」「森林や山」「神社や寺、教会」であることが明らかになりました。

ただし、地域の状況によって、活用の仕方や利用できる環境は異なるので、地域ごとに捉えていく必要があります。

箇数

500

0

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

100

50

0

500

250

200

150

## 何を…子どもや保育者はそこで何を経験しているのでしょうか

### 地域



図7:最も利用している場所における地域の人との交流(数及び比率)(複数回答項目)

- Q. 園外での活動で、子どもたちはどのような経験をしているのでしょうか。  
A. 最も回答が多かったのは、「挨拶をする」でした。「その他」では、小中高生や働く人との交流、郷土を知る、街の人と共に作業する、活動に参加するなどがあげられていました。

## どうやって…その取組みとは

### 地域

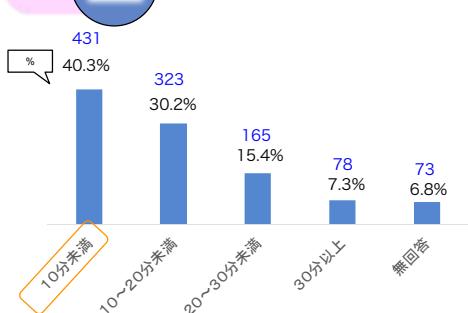


図8:最もよく利用している場所への所要時間(数及び比率)

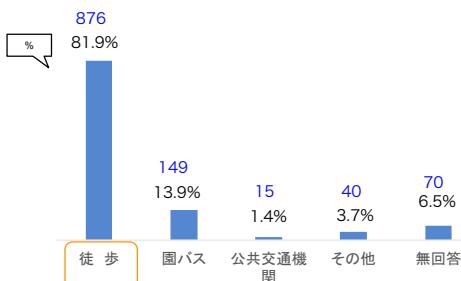


図9:最もよく利用している場所への移動手段(数及び比率)(複数回答項目)



Q. 園が園外で行っている活動は、園からどのくらいの範囲が多いのでしょうか。

A. 調査では、園から「10分未満」の距離にあるところで活動を行う園が最も多く、次いで「20分未満」となっています。移動手段としては「徒歩」が最も多くなっています。

また、園外活動におけるねらいとして、「自然に触れ合う」「季節感を味わう」「体を思いきり動かす」を選択した園が多くありました。園から徒歩で10分程度の所に、自然に触れ合えたり身体を思いきり動かせたりする場を求めている園が多いことがわかります。

## なぜ…どのような思いや願いからの取組みなのでしょうか

### 地域



図10:最も利用する場所のねらいや目標(複数回答項目)

## 「未満児の戸外環境に関する調査」より

どこで...未満児はどこで過ごしていることが多いのでしょうか

- Q. 園舎が2階以上を有していたり、中・高層建築物の中に位置しているなど、未満児保育室の場所は様々です。中でも歩行開始前後の時期にある未満児が過ごす部屋をどこに設置するかについては、保育者の中でも意見が分かれるところかと思います。そこで調査では、未満児の保育室がどこにあるかを尋ねました。
- A. 結果、未満児室を園の1階に配置している園が多く、また保育室から園庭に直接出しができる構造の園が多いことがわかりました。また、園庭は未満児専用を意識した設定をしている園が多いこともわかりました。



図11:未満児保育室のある階(数及び比率)(n=1,167)(複数回答含む)

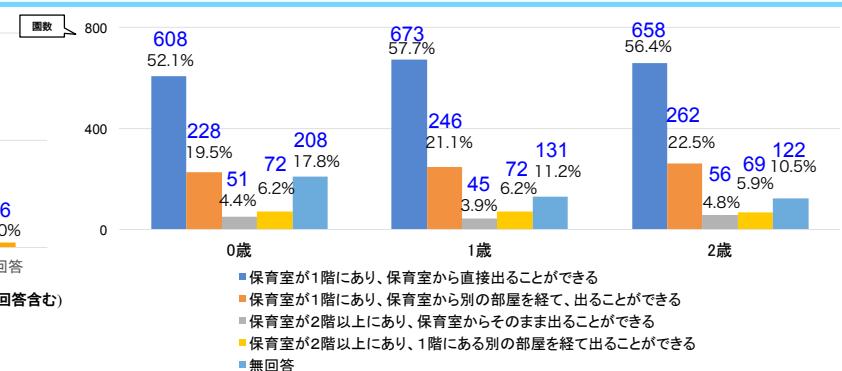


図12:未満児保育室から園庭への経路(数及び比率)(n=1,167)

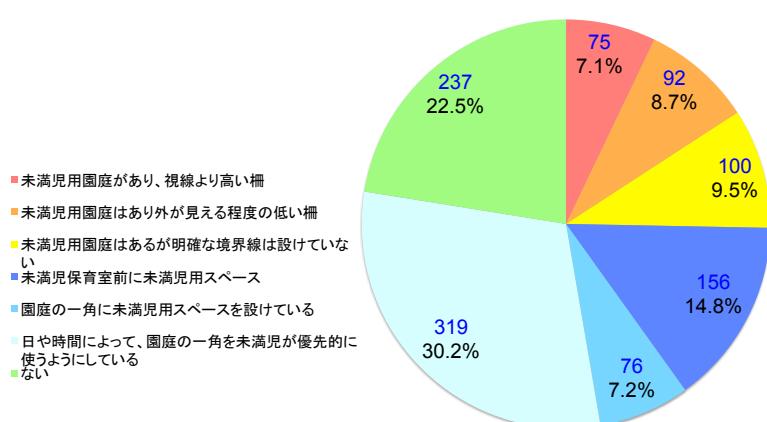


図13:未満児用の場所や、未満児の利用を意図した場所(回答数及び比率)(n=1,055)

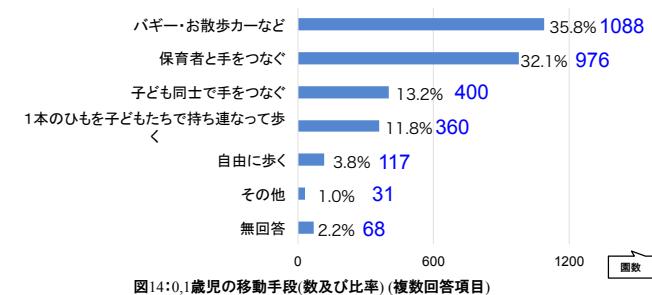


図14:0.1歳児の移動手段(数及び比率)(複数回答項目)

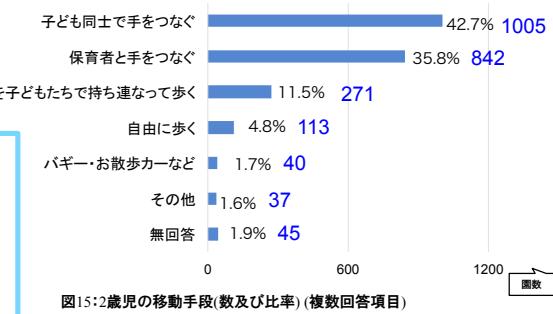


図15:2歳児の移動手段(数及び比率)(複数回答項目)

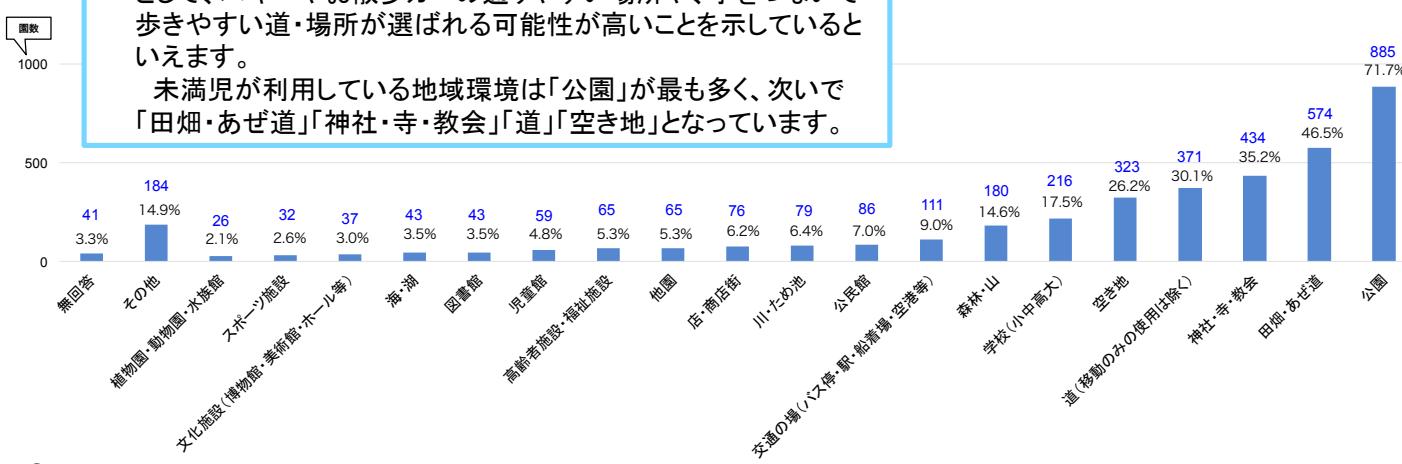


図16:園外での未満児の日常的な活動場所(数及び比率)(複数回答項目)

## どうやって...その取組みとは

- Q. 一人ひとりに応じた保育の実現に向けて、園での未満児保育における園と家庭との連携にはどのようなものがあるのでしょうか。
- A. 園では家庭との情報共有を主に「送迎時の会話」「連絡帳」「お便り」を用いて行っている園が多く、ウェブサイトやブログ、SNSを用いている園は比して多くはないことがわかりました。一方で、ICTを活用することにより、様々な活動の展開を実現できた実践事例もあるようです。  
また保護者と共に共有する情報の内容は、「心情や工夫、気付き等子どもの様子」「園の取り組みとして行ったこと」、次いで「園での怪我やトラブル」である園が多いことがわかりました。情報共有の内容の質は、プロセスの質として、保育の質に深く関わります。実践の中でも共有頻度が高い「子どもの心情や工夫、様子」等を伝えることができる専門性が求められているといえます。

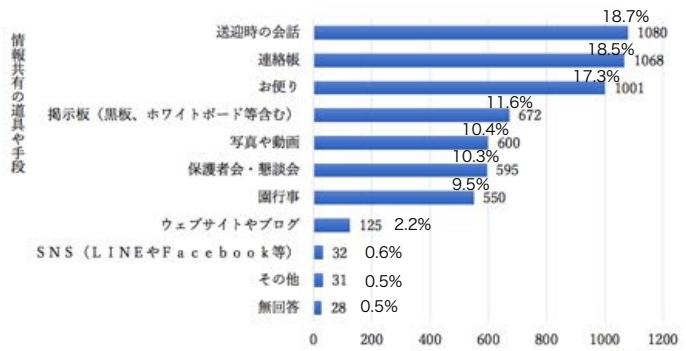


図17：戸外環境の保育について、未満児保護者との情報共有に役立っている道具や手段(数及び比率)(複数回答項目)

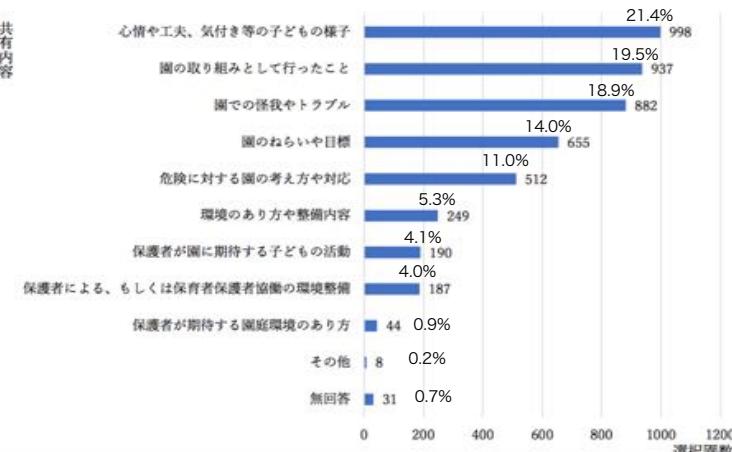


図18：戸外環境での保育について、未満児保護者と共有する内容(数及び比率)(複数回答項目)

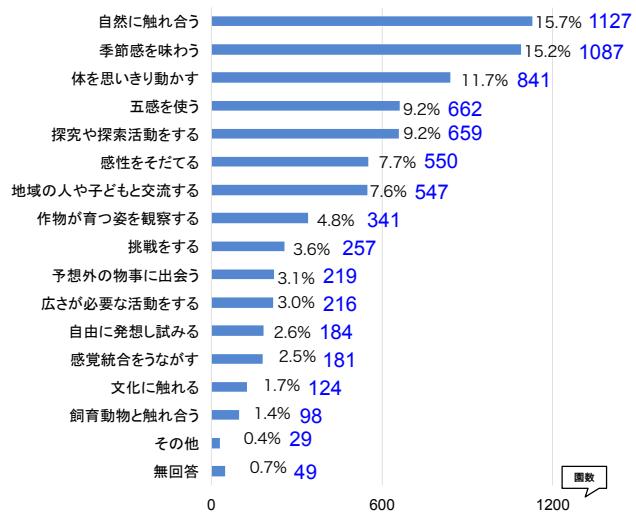


図19：活動場所を利用するねらいや目標(数及び比率)(複数回答項目)

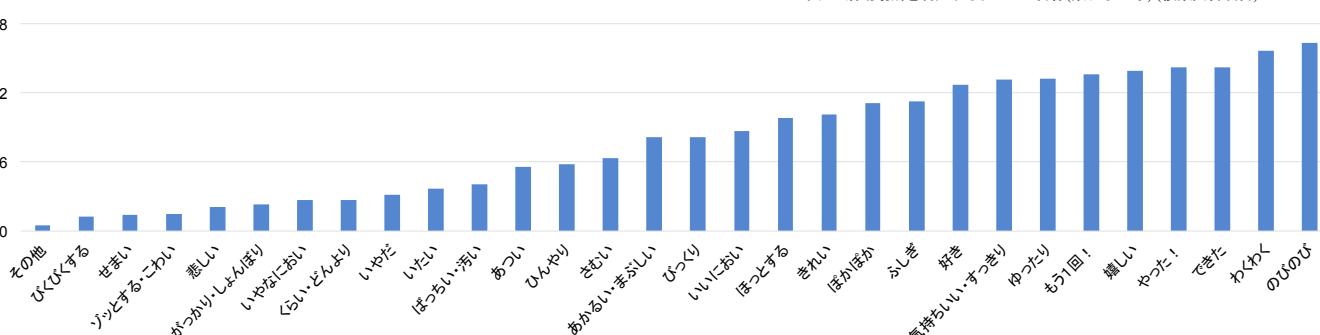


図20：未満児の園庭で大切にしたい感情や感覚(「とても当てはまる」=2、「当てはまる」=1、「選択なし」=0とした場合)の各項目の平均数値(n=1,167)(複数回答項目)

# 子どもたちが生きる地域に これから求められること

Q. 地域環境の利用における課題にはどのようなものがあるのでしょうか。

A. 人口規模別に見てみると、政令指定都市と町村では「利用できる場所が少ない」を、中核市では「交通量が多い」ことを、政令指定都市と中核市以外の市では「子どもの発する音が周りの人に迷惑をかけないか心配」を課題とする園が多いことがわかりました。また、自由記述の回答からは、以下のように、物理的環境及び人的環境に関する課題として、子どもの活動に応えられるような体制や環境整備についての具体的な提案が挙げられています。

## 【場所に関する課題】

子どもの多様な活動を支える遊び場のような場所やイベントがほしい。

## 【人的課題】

下見等の時間の確保。

## 【人的課題】

安全を守る為複数で引率しなければならず、保育の体制が中々作れません。

## 【物理的課題】

歩道と車道が同一のため、車が通る際に危険を回避することが多くあり、のびのびと歩行できにくい場面がある。

## 【物理的課題】

## 【活動における課題】

一般利用者に気を遣わせていることがある。

質問紙調査自由記述より

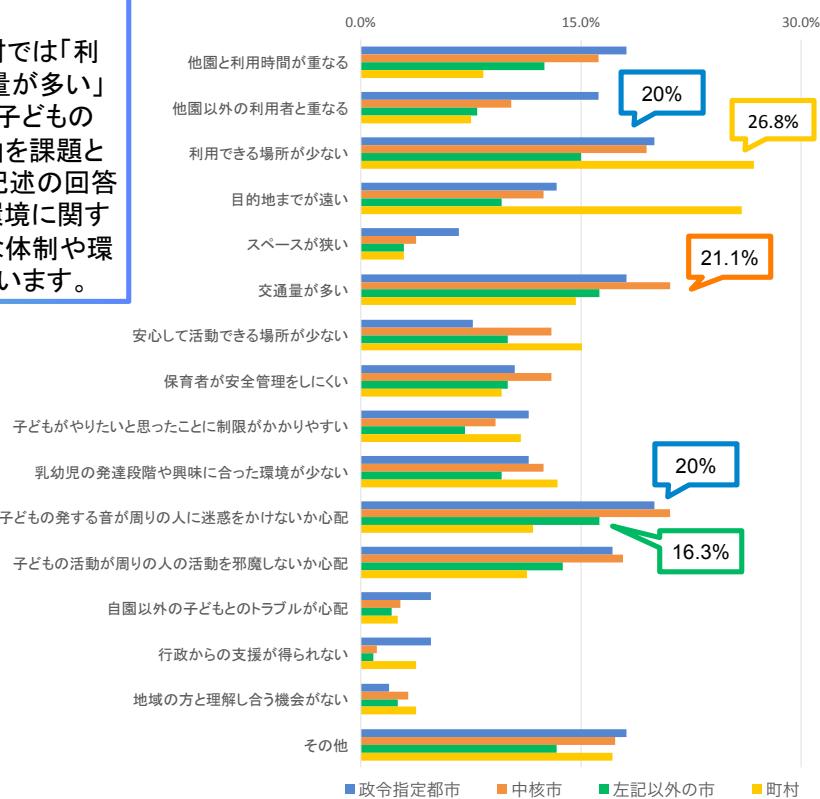


図21: 人口規模別地域環境利用における課題(n=769) (複数回答項目)

今回の調査を通して、園では、「自然に触れ合ったり季節を感じたりする経験」や、「体を思いきり動かすこと」などを子どもたちに期待して、徒歩10分前後にある身近な戸外環境を活用している様子が見えてきました。またそこでは、地域の方との関わりが大切にされ、子どもたちにまちを伝える取り組みとしての価値を見出している実践もあり、園外の環境に求められる価値が、園庭の補完的な場としての価値に限らない教育的な可能性も明らかになりました。また、未満児専用の場や取り組みを実践しているなど、未満児固有の場や保育内容についてさらに検討していく必要性もみてきました。

私たちのグループではこれらを子どもの経験を豊かにする上での重要課題の一つとして、引き続き検討を重ねてまいりたいと思います。



- 【ダウンロード版】
- 園庭リーフレット(日本語版) [Download](#)
  - 園庭リーフレット(英語版) / Brochure on ECEC Playgrounds (English ver.) [Download](#)
  - 園庭リーフレット(韓国語版) Brochure on ECEC Playgrounds (Korean ver.) [Download](#)
  - 園庭リーフレット(中国語版) Brochure on ECEC Playgrounds (Chinese ver.) [Download](#)
  - 園庭リーフレット(台湾中国語版) / Brochure on ECEC Playgrounds (Taiwanese Mandarin ver.) [Download](#)

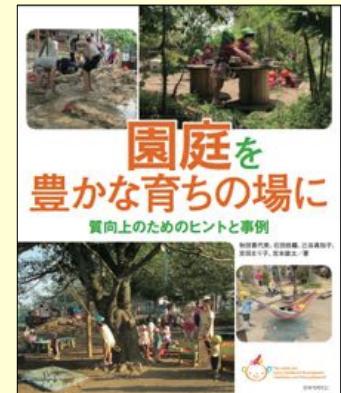
より詳しく知りたい方は、Cedepホームページ  
「園庭・地域環境での保育／子どもの遊び観研究  
プロジェクト」

([http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp//  
projects\\_ongoing/entei/](http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp//projects_ongoing/entei/))  
をご覧ください。本研究グループがこれまでに調査・  
報告してきたことを掲載しています。

本紙作成において、写真掲載園をはじめ、本調査にご協力いただきました園の方々に心より感謝御礼を申し上げます。

<写真掲載園一覧>  
板橋富士見幼稚園(東京都)  
ほっぺるランド西神田(東京都)  
認定こども園 照福こども園(兵庫県)  
ひじりにじいろ保育園(大阪府)  
認定こども園 日向ないろ保育園(宮崎県)

なお、本紙の掲載写真はご了解を得て使用しております。  
本紙の無断複写・転載は、著作権上禁止されています。



本調査の知見を、書籍にまとめました。  
より詳しい情報を求めの方は、  
2019年8月下旬～9月上旬に発売  
される書籍をご一読ください。

引き続き、園庭や戸外/地域環境に関する実践の質を高めるための方法を皆さまと考えていくために、ご紹介、情報提供をお願いいたします。

メールアドレス  
entei.asobi2016@gmail.com

子どもの経験をより豊かに 2.0  
屋外環境および3歳未満児に関する調査の結果から考えるこれからの保育

東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター  
園庭調査研究グループ 代表研究者: 秋田喜代美

2019年8月 初版

石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太  
印刷: よしみ工産株式会社